



お江戸舟遊び瓦版 968号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東

シヨシヤナ・ズボフ 野中香方子訳 「監視資本主義 人類の未来を賭けた闘い」 東洋経済新報社 21.7.8 (16)
結論 私たちの権利

第18章 上からのクーデター

監視資本主義は3つの衝撃的な形で、市場資本主義の歴史から乖離し、
①何物にも束縛されない自由と特権的な知識の所有、②長年にわたる人々との有機的な互恵関係を放棄する、③集産主義的な社会観が隠されている。

I. 自由と知識

- 監視資本主義者は、あらゆる制約からの自由を要求するという点では、他の資本主義者と変わらず、法律や規制からの自由も要求する。アダムスミスの「見えざる手」は、人間生活の根深い特徴を述べたもので、個人は即時的な快適さや必要なものを得るために資本を局所的に利用し、より広い市場で効率的に使う。
- 新自由主義経済学者ハイエクは、民主主義よりも市場を選び、市場システムは分業を可能にしただけでなく、知識の分割に基づく、資源の協調的な利用を可能にしたと考える。
- 監視資本主義は昔ながらの資本主義ではなく、自由と無知は双子ではない。競争の激しい市場で、無知を知識に変換する監視資本主義者の能力は、世界の変容さえ可能にする莫大な財政的資本、知的資本を有し、「ビッグ・アザー」の絶え間のない拡大という形で実現される。さらに驚くべきことに、それらの資本は人間経験の強奪・レンディションによってもたらされる。私たちの生活はスクラップにされ、売却され、彼らの自由と我々の服従と無知を持続させるための資金になる。

II. 互恵主義の後

監視資本主義は、長年にわたって資本主義の持久力と適応性を持った、市民との有機的な互恵関係を放棄し、互恵の代わりに無関心を採用し、社会と互恵関係にあったものすべてを切り捨てた。監視資本主義は市民を顧客とは見なさず、大規模なコンピューター資源を有するが雇用者数は少ない、

III. 新しい集産主義と、極度の無関心の達人

- 自由の獲得と知識の蓄積は、集産主義的志向を形づくる。自らの商業的利益のために、私達を巣の中での集団生活に追い込む。監視資本主義は「シロアリの巣」の構造に取組んでいるが、民主主義を見下したハイエクでさえ、人間の自由とは相容れないとして軽蔑しているのだ。
- フェイスブックは人と人をつなぐ良いものだが、悪い目的で使えば悪いものになる。フェイスブックを通じて組織されたテロリストの攻撃で、誰かが死ぬかもしれない。大がかりなデマ、詐欺、暴力、ヘイトスピーチという腐敗したコンテンツに対して脆弱だ。
- 情報の腐敗は、フェイスブックを取り巻く環境の特徴でもある。最も興味深いのは、監視資本主義の顧客、広告代理店と広告主までもがグーグルとフェイスブックに対して激怒し、不信を抱いた。しかし、両者は、はるか昔に自らの魂を極度の無関心に売渡し、2社にオンライン広告を独占させ、監視資本主義の成長の原動力となってきた。

IV. 監視資本主義とは何か？

- 監視資本主義の反民主主義的で反平等主義的な、絶対的な力の行使は、市場主導の上からのクーデターとみるのが妥当だろう。伝統的なクーデター（国家の転覆）ではなく、人々の転覆だ。「ビッグ・アザー」という、テクノロジーがもたらしたトロイの木馬による、大衆の征服である。人間の経験を強奪することによって、知識と力を独占し、社会の知の分割に特権的な影響を及ぼす。
- 監視資本主義に境界はなく、市場と社会、市場と世界、市場と人との昔ながらの区別を無視する。



- 3世紀以上、産業文明は人間にとって都合のいいように自然をコントロールしてきた。機械によって身体の限界を超越し、克服してきた。その結果、海と空、地球は危機に瀕している。身体の限界を克服する機械から、市場目的のために個人、グループ、集団の行動を修正させる機械へと移っている。この世界的な道具主義の力は、意思のための意思を養い、一人称で語ることを可能にする人間の内面性を圧倒し、民主主義を根絶やしにしようとしている。

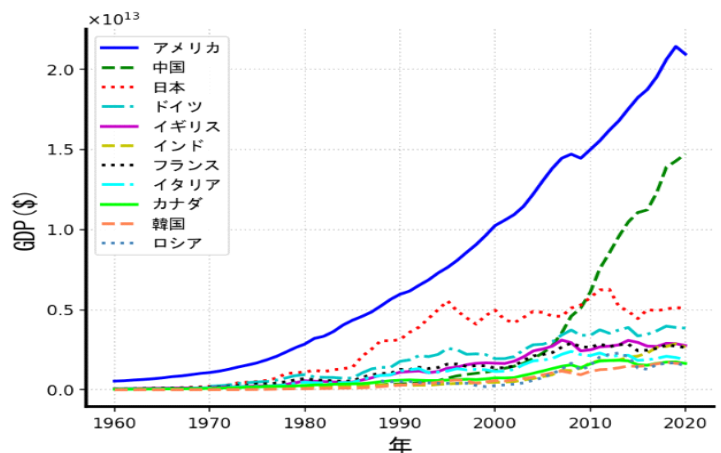
V. 監視資本主義と民主主義

- 道具主義の力は人類の外でも、民主主義の外でも勢力を増している。民主主義は前例のない力に脆弱で、監視資本主義は憂慮すべき世界規模の漂流の一部とみなされており、多くの政治学者はこの漂流が行き着く先は民主主義の必要性和不可侵性が軽視される未来だと考えている。多くの学者は、世界的な民主主義の後退、堅牢と見なされてきた西洋民主主義の「解体」を指摘する。
- 欧米の多くの国で民主主義への愛着が弱まっている。ピュー研究所の調査によるとアメリカ人の民主主義の支持は40%となっており、成熟した民主主義社会の市民にとって神聖な領域ではない。自己決定することに疲れて、「ピック・アザー」の誘惑に屈したら沈黙の独裁制になるだろう。

VI. 抵抗せよ

- フリードマンは楽観的で精力的な教育者で、立法と司法は常に20年前から30年前の世論を反映すると考えていた。新自由主義を先導したフリードマンとハイエクは世論が変わる前に法を変えることに利があるとは考えない、変えるべきは世論だと信じていた。資本主義が長く持続しているのは、機能が優れているからではなく、私有財産と利益追求と成長に柔軟であるからだと考えていた。
- ベルリンの壁が崩壊した最大の理由は、東ベルリンの大衆が「もうたくさんだ！」と言ったことだ。私達も、デジタル未来を人類のホームにするための数多くの「偉大で美しい」新たな事実の著者になることができる。「もうたくさんだ！」。これを私たちの宣言としよう。

所感：やっと最後に到達した。監視資本主義の実態が理解できたかどうかは心もとなないが、少し前、電気自動車テスラのCEOマスクがツイッターを買収し、たくさん社員の解雇した。今年は、アメリカの関連会社への投資銀行2社が倒産しその後半分の米銀行が続くとも言われ、今までの成長一辺倒から変化が伺え、監視資本主義の脆弱性を示しているかどうか今後の成り行き次第ではないだろうか。



近年60年間のGDPの成長曲線に注目すると、多くの国に比較しアメリカの突出した成長が伺え、中国の2005年以降の急成長に驚かされる。日本は1990年前後の成長が、その後全く止まっている。中国はアメリカの一人勝ちに途中から追いついた感があるが、日本はここ30年間成長が止まっている。ヨーロッパの成長は実質具体的なものと感じられるが、日本の1985~1995年の成長はバブルとみなされているように、アメリカや中国の2005年以降の成長は実態が乏しい監視資本主義の中で生まれたバブルではないかと推察することができるのではないだろうか？

監視資本主義が、実質的な経済成長なのか、バブルとみられる実態のないモノなのか注目すべき課題だ。監視資本主義は民主主義を危うくするかもしれないと著者は危惧しているが、そうならぬように法的規制が掛けられるものなのか疑問だらけだ。ロシアのウクライナ侵略などの現状から見えてくるのは、平和な自由平等な社会づくりの難しさなのだろう。人々の便利な生活のために生まれたIT技術やAIが世界を破滅へ突き進む道づくりにならないことを祈念するばかりだ。

日本が生き残るために始めた第2次世界大戦と同様なことにならないことを祈りたい。

監視資本主義のこれからの歩みを、自分事として注目し続けねばならない。(文責 中瀬)